

9月ほけんだより

2020年8月31日
あさひ保育所



幼児に多い事故についてのお話です。

新型コロナウイルス感染症の影響で制限のある中、おうちのなかでの事故もよくきかれます。

子どもの行動は予測がつかないことも多々ありますね。

未然に防ぐことが出来ることは、周りの大人の役目ですね。

溺水

- 入浴時、洗髪中に湯船にいた子供が溺れた。
- 着替えを取りに行っている間に転倒した。

- 頭や顔を洗うときはこどもを浴槽から出す。
- 浴室で、こどもだけにしない。一人きりにしない。



誤飲

- たばこをかじってしまった。
- 祖父母の薬を飲んでしまった。
- チューハイを飲んでしまった。

- いつ、何を、どれだけの量を飲んだかの確認が必要です。
- ☆誤飲の1位は「たばこ」
2位は「医薬品」



重い中毒症状が現れるリスクが高い医薬品

☆向精神薬・血圧降下剤・血糖降下剤など。

胃洗浄が必要になり、入院することもあります。

- 薬はお菓子と間違えて誤飲することが多いようです。踏み台を使っても届かない、容易に開けられない場所に保管しましょう。

(公財) 日本中毒情報センター 中毒 110 番

- 大阪中毒 110 番 (24 時間対応) 072-727-2499
- つくば中毒 110 番 (9~21 時対応) 029-852-9999



「禁煙しませんか？」

大人が口にするものを、子供が見て食べてしまうのは当然のことです。ですが、それが危険なものかどうかはわかりません。誤飲して、つらい思いをするのは子どもです。

「受動喫煙」

「子どもは歩く禁煙マーク」と言われています。妊婦さんやお腹の赤ちゃんにも悪影響になります。たばこの煙が、大切な人を傷つけていますよ。

やけど

- 花火を触った
- 汁物の汁がかかった
- 炊飯器の蒸気口を触った

炊飯器・ポットは手の届かない高さに配置する



- 流水で十分冷やしましょう。5分以上、痛みがなくなるまでが目安です。
- 市販されている冷却用シートは、やけどには使えません。
- 衣服がある場合は、脱がさず服の上から流水で冷やしましょう。
- 見た目よりも深いやけどのこともあります。冷やしたあとは、医療機関でみてもらいましょう。

